

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章から読み取ったことや自分の考えを記述する際の語彙が乏しいこと。 既習漢字や新出漢字を日常的に活用すること。 自分の考えを堂々と発表すること。 説明的文章における要旨を適切に捉えられるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい表現や日本古来から伝わる伝統文化などを紹介したり、触れさせたりして語彙力を増やす。また児童の書いた文章を見本として紹介し、表現の仕方を学び合わせる。 学習の中でタブレット端末を用いる機会とノートや作文用紙を使う機会をバランスよく作り、文章の中で正しく漢字を書く機会を増やす。その際、児童が記述した文章は添削して返し、個人の課題を理解させる。 一斉の発表の前にグループで話し合う時間を設け、友達の意見を参考にしたり、自分の意見に自信をもたせたりできるようにする。 説明的文章の構造についての理解を深めさせ、筆者の意見がどこにどのように書かれているのかをおさえさせる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して調べたいという意欲を高めていくこと。 日常生活や社会状況を把握し、日本の国土の様子や現状理解を更に進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定の方法を再度提示し、丁寧に指導する。また、好奇心を掻き立て、追究したいという意欲を高められるような授業の導入の仕方を工夫する。 社会の知識や思考力に乏しい児童には、絵図などの資料を読み取る際は読み取る視点を理解させたり、日常的に社会情勢について話題に出したりする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の四則計算を確実に出来るようにすること。 自分の考えを進んで説明できるようにすること。 多様な解決を考えられるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等で繰り返し練習する時間を確保し、個別に指導をしていく。 少人数で説明する活動を通し、説明することに対する抵抗感を減らす。 全体での検討場面で多様な考えを意図的に取り上げることで、考えを深められるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や生活経験を根拠にして予想を立てたり、実験結果からどのようなことが言えるのかを考えたり、表現したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の振り返りをしたり、実験結果のどの部分に着目して考えればよいかを全体で話し合ったりしながら、個々の考えの表現につなげていくようにする。予想や考察の視点を示し、苦手意識のある児童でも自分の力で表現できるよう支援する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲に対して、どんな表現がふさわしいか自分の思いをもてるようにすること。 曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を形作っている要素との関わり合いを感じ取ったりして、楽曲全体の構造に気を付けて聴くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いをもち、表現のバリエーションがさらに広がるよう、曲全体のまとまりを考えたり、見通しをもちながら学習できるよう、題材を設定する。 楽曲を特徴付けている旋律やリズムだけではなく、楽曲全体を味わって聴けるよう、楽曲の全体の流れを身体表現したり、曲全体をつかむワークシートにまとめたりするなど、視覚的にも理解しながら鑑賞する。 	

図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの工夫を作品に加えること。 ・抽象的表現や、画面の構成を行うような高学年的題材において写実の風景画のイメージから抜け出せるようにすること。 ・立体物を組み立てる際に、2次元的にとらえているのでうまくいかないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材のめあてを明確にし、さらに自分だけの発想を生かせるような題材を設定する。 ・スモールステップで、楽しみながら様々な表現方法が体験できるように題材や時間数を設定する。 ・一人一人の課題を全体で共有し、その都度どうしたらいいのか、互いに考えを出させながら活動を行う。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に学習意欲が高いが、実技の知識や技能の定着が不十分である。 ・ミシン、裁縫用具、調理器具を扱う際、模範を見て用具の扱い方や部位の名前を捉えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の知識や技能のよりよい伝達のために、視聴覚教材を活用する。また家庭の協力や教員の指導体制を工夫し、個の技能能力に応じて指導を行う。 ・感染防止対策により、個別指導体制を整え、安全に配慮し、手順や技能が正しくできているか、個に応じて指導する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能や運動に対する意欲の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップでの場の設定をして、技能のポイントを児童が教え合うような活動を取り入れる。全員が楽しみ、高め合いながら運動できるよう教材の提示の仕方、場の工夫などを行っていく。 	